

## 【 臨床研究に関する情報の公開 】

2型糖尿病で当院を受診された患者さまの試料・情報を用いた医学系研究に対する  
ご協力のお願について

項 目	内 容
1. 研究課題名	デュラグルチドが高齢者において半年後HbA1c<8%達成に必要なインスリン分泌能の検討
2. 研究の対象者	2015年9月16日から2021年6月30日の間に、当院の糖尿病・内分泌代謝センターにおいてグルカゴン負荷試験を受けた上で糖尿病治療薬(トルリシティ±内服薬)の治療を受けられた65歳以上の2型糖尿病の方
3. 研究期間	令和3年7月15日 ～ 令和3年11月30日
4. 研究実施体制と研究責任者	研究実施箇所：関西電力病院 糖尿病・内分泌代謝センター 研究責任医師：糖尿病・内分泌代謝センター医員 和泉清拓 共同研究機関：無し 資料・情報提供機関：無し
5. 本研究の意義・目的	頻回注射が困難な高齢者が多いが、週1回注射程度なら可能な事が多い。高齢者は緩やかな血糖マネージメントで許容される。週1回注射であるトルリシティ(デュラグルチド)でどのくらいの血糖マネージメントが可能か予測できたら良いが明確な指標が無い。本研究では65歳以上を対象に「デュラグルチド±内服薬」でHbA1c<8%を達成するために望まれる残存インスリン分泌能を明らかにする。
6. 研究の方法	血糖マネージメント不十分(HbA1c>7%)な65歳以上の日本人2型糖尿病患者で事前にグルカゴン負荷試験(以下GST)を施行され、新たにデュラグルチド0.75mg/週を開始された併用薬が内服薬のみの者で、6か月後までデュラグルチド0.75mg/週±内服薬で加療された者を対象に、6か月後のHbA1cと事前に行ったGSTでの残存インスリン分泌能の関係を後ろ向きに検討する。
7. 研究に用いる試料・情報の種類	年齢、糖尿病罹病期間、HbA1c、身長、体重、eGFR、処方薬剤、GSTの結果
8. 試料・情報の保管方法と廃棄方法	本研究では特殊な試料は用いない。紙媒体も用いない。廃棄すべき試料はない。
9. 個人情報の保護について	電子カルテデータを参照し、連結不可能な匿名化処理をしたうえで、データ解析をおこなう。
10. 情報管理責任者	関西電力病院 糖尿病・内分泌代謝センター 医員 和泉清拓
11. 問い合わせ・苦情等の窓口	〒553-0003 大阪市福島区福島2丁目1番7号 関西電力病院 糖尿病・内分泌代謝センター 医員 和泉清拓 電話：06-6458-5821 (代表)